

## 校内消毒作業について 実践報告と課題

- 基本的な感染防止対策として、消毒の徹底が挙げられており、こまめな手洗い、手指消毒に加え、校舎などの児童生徒等・教職員がよく触れる部分については、1日1回以上消毒するとマニュアルに定め、実践しています。
- HR教室を中心に、トイレや授業で使用する特別教室、廊下などの手すりを、各学部で分担し、児童生徒下校後に消毒作業を行っています。
- 校舎などの施設設備の消毒には、主として次亜塩素酸ナトリウムを使用し、児童生徒のいる時間帯での消毒や次亜塩素酸ナトリウムが使用できない物品については、消毒用エタノール使用しています。また、楽器などエタノール消毒液の使用ができない教材やPCなどの精密機器については、使用前に手洗いの徹底を行うこと、きれいな乾いた布で拭くことなど、物品に応じた清拭を行うようにしています。

### 実践の中で検討、改善したこと

- ・授業が始まるに当たり、with コロナにおける授業の工夫や教材を考える中で、共用する教材の消毒方法などを各教科で検討を行いました。教材の共用を極力控える、共用する場合は前後の手洗いを徹底するなどの基本線を確認したうえで、各教科の特性に応じて挙げられたアイデアを一覧にし、教員間で情報共有を行いました。
- ・消毒に次亜塩素酸ナトリウム（ハイターなど）を使用していることから、教職員にゴム手袋を配付し、都度のポリ手袋の消費を抑えるようにしました。
- ・消毒箇所について、自立活動室などの全学部が関わる教室については、曜日ごとに各学部や自立活動部が担当し、作業負担が偏りすぎないよう分担の見直しを行いました。
- ・消毒に使用する薬液について、界面活性剤の運用を検討しました。ただ結果としては、消毒・水拭き・乾拭きと3工程が必要になることでの作業時間の増、セノックマットやトイレの介助用ベッドなど洗剤の泡切れが悪い素材があること、床などに拭き残しがあると滑りやすくなるなど、実際の使用面での課題が多い点から現時点での運用は見送ることにしました。

### 課題

- ・府下の状況を見ながらの判断になるが、感染状況が落ち着いてきているのであれば、どこかで現状の消毒の方法を変えていくことも必要ではないかと考えています。
- ・感染症対策として必要なことではあるが、従来の会議時間を20分消毒作業に充てています。授業ごとの終わりに数分間、できる範囲での消毒作業に取り組むなど、作業の短縮化も検討の必要があります。
- ・1学期は現状の消毒作業を継続して行うことを7月初めに周知がありました。2学期からはどうするかなど、少し先のことも検討を進めたいと思います。
- ・消毒にかかるコストについて、雑巾をクラスに配付できれば、ペーパータオルの節約にもつながります。（トイレについては、ポリ手袋もペーパーも継続）